

9月定例会

◆日時：9月24日（木）14：30－16：30

◆開催方法：オンライン研究会（Webex）、およびリアル見学数名

◆内容：「テレワークの現状と課題（その3）および新時代のオフィス」

株式会社 Phone Appli での講演とオフィス見学など

(1) 「テレワークでオフィスはどう変わるか（3）」

三木光範（同志社大学名誉教授）

(2) 「全員がテレワークして分かったこと」

北村隆博（株式会社 Phone Appli コラボレーションマスター）

(3) 株式会社 Phone Appli の新時代のオフィス CAMP の見学と説明

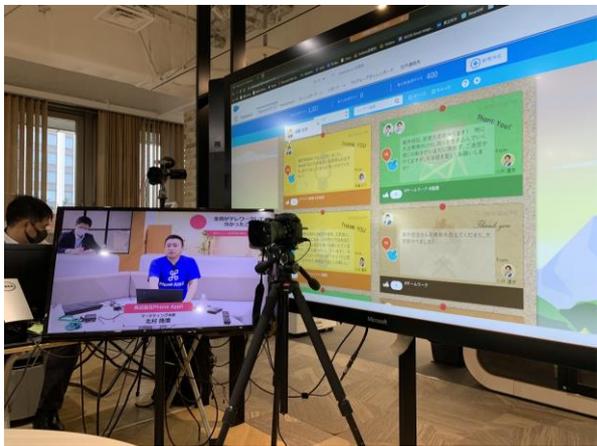
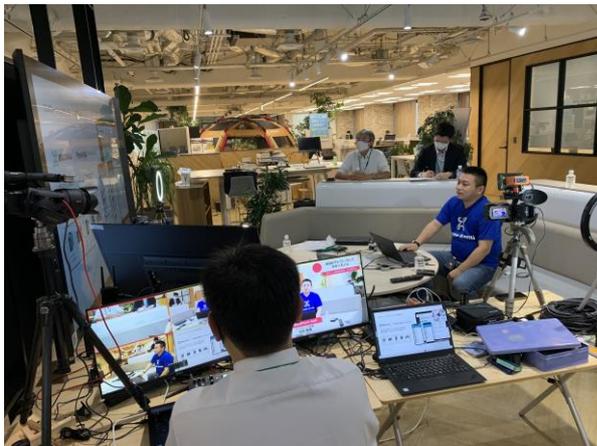
コミュニケーションをアップデートし、時代に合った働きかたをともに実現する

PhoneAppli 社の革新的オフィスである CAMP（Collaboration and Meeting Place）を動画カメラを持ち、移動しながらオンライン見学も致します。これは本協議会として初めての試みであり、リアルタイムの双方向コミュニケーションでご覧頂き、その場で私が質問して答えていただくほか、オンライン参加している方のご質問や注文などをリアルタイムで受け付け、実際に見学しているようなお気持ちになればと考えています。オンライン見学の新たな試みを成功させようと、関係者一同張り切っております。

◆当日の写真

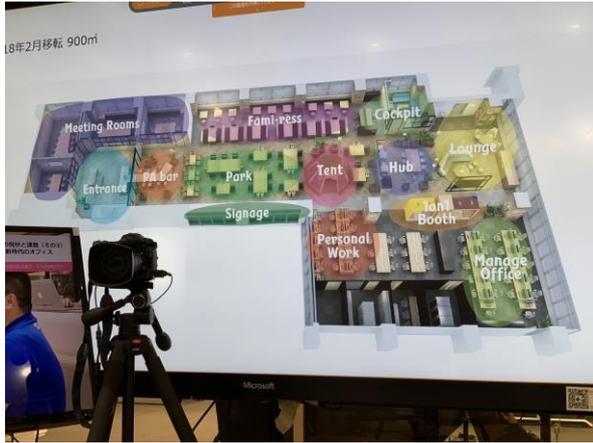














◆開催関係者への礼状

株式会社 Phone Appli

代表取締役社長 石原洋介様

マーケティング本部 北村隆博様

三菱電機システムサービス株式会社

梅本雅裕様、助川 崇様、宮脇公望様

写：知的オフィス環境推進協議会 運営委員各位殿

知的オフィス環境推進協議会会長の三木です。皆様、昨日は格別のご高配を賜り、誠に有り難うございました。

Phone Appli 社代表取締役の石原様には研究会終了後にお目にかかることができ、大変光栄でした。

2008年に創業され、コミュニケーションポータルサービスを開発され、昨日拝見させて頂きましたが、素晴らしい社内のコミュニケーションを活性化するポータルサイトとして、従来からのアドレスブックなどとは本質的に異なる利用法ができるなど社内人材の積極的な活用が極めて容易に行えるなど、ますます進化してゆくシステムの充実した内容と、社員の働き方を根本的に変える先進的なオフィスである CAMP を 2018 年に作られたこと、そしてそれらのシステムとオフィスが、この COVID-19 が収束しない状況下において最大限に活用されている現場を知ることができ、大変有意義な研究会となりました。

Phone Appli 社の北村様には、オンライン配信のスタジオをお借りして貴社の素晴らしい

機材を用いてオンライン研究会が実現できたこと、また、「全員がテレワークして分かったこと」と題して、大変中身の濃い、どの会社でも参考になる課題や解決法も教えていただき、有り難うございました。貴社の働き方に関する種々のコンセプトが非常に明快であることも敬服しました。「ルール、ツール、プレイス」の順で考えることの重要性は非常に重要なコンセプトだと思います。ともすれば「プレイス、ツール、ルール」の順番になりがちな従来の企業の働き方は逆であり、与えられたオフィス、与えられたツールの中で身動きできない企業が多く、それに合わせたルールが作られるのでは、環境変化への素早い対応はできないと思います。

貴社の発想は、まずルールを決め、それに最適なツールを探し、そしてそれらを実現できる場を作るという流れであり、まさに現在すでに始まっている環境激変の時代に合ったコンセプトだと思います。そのために、キャンピング道具（机、椅子、テントなど）をうまく活用し、安価でありながら柔軟性が高く、環境変化への適応性も高いこと、もともとオンラインミーティングのための、いわゆるテレビ会議システムが多く設置されていること、多くのプロジェクターが壁面巨大スクリーンに何でも映し出せること、靴を脱いでゴロゴロしながらプレゼンテーションやイベントなどを行える空間などを設置されているのが印象的でした。私は昔からオフィスの柔軟性・選択性・知的性が重要と言いつつありますが、その一つの具体型が貴社のオフィスにはあるような気がしました。

キャンピング用品は、軽量で、オフィス什器に比べて安価で、簡単に収納したり移動出来るので、まさに極めて柔軟性が高い什器です。それにも拘わらず、オフィス内にキャンピング用品が多いことで、社員の気持ちがワクワクし、和やかな雰囲気になります。私もテントの中に入れていただき、6名ぐらいのミーティングをやると、かなり高い親密度で雑談ができる場所だと感じました。

その一方で、リアルな植物をオフィスに入れ、週に1回業者が管理していること、超大型の液晶ディスプレイ型のホワイトボード（ブラックボード？）で、指で文字や図形が描ける高価なデジタルボードの設置、多数のシスコ製のテレプレゼンスシステムを導入されていること、上司との1対1での悩み相談やコーチングを行う、あるいは一人で集中して仕事するガラス張りではあるが遮音性能が抜群の移動型の外国製品のブースが二つあるなど、お金をかけるにはしっかりと投資するという、メリハリの効いた予算の使い方も素晴らしいと思いました。

このような素晴らしい働き方とオフィスは、ほとんどすべてが社員の意見を聞きながらトップダウンで行われたこと、石原様の知識（これまでに成功した企業のオフィスの状況など）、人のやる気を出す仕掛け作りのアイデア、そしてそれを支える北村様ほかのチームワークこそが Phone Appli 社のカルチャーであると思いました。なにより、朝令暮改ではないけれど、ルールは常に改良する、それに対してツールもできる限り変えてゆくという、常に進化というコンセプトを持っておられることは、進化するオフィスを提唱する私にとっては

我が意を得たりと思いました。

最後になりましたが、この研究会を企画して頂きました三菱電機システムサービス株式会社の梅本雅裕様はじめ、見学カメラを持ち運んで頂きました助川 崇様、宮脇公望様には、大変お忙しい中、研究会のためにご協力を頂き、深く感謝を申し上げます。有り難うございました。

それでは、Phone Appli 社様とは、また機会があればなにかコラボレーションできればと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

皆様の暖かいご協力に感謝します。有り難うございました。